

Abstract

デュアルユース・ジレンマとバイオテロ対策

田中 極子（防衛研究所主任研究官）

本論文は、冷戦後の生物剤による脅威に対する認識の変化を整理し、それに対する先進的な取り組みの分析を通して、昨今のバイオテロ対策の傾向を明らかにした。はじめに生物剤によりもたらされる脅威の全体像を、国家による生物兵器の開発からテロリストへの拡散という水平的拡散と、生命科学分野の技術発展に伴うデュアルユース・ジレンマという垂直的進化から捉え、生物剤の悪用に対する包括的な禁止の枠組みであるBWCの現状と課題を示した。そのうえで、生物剤による現代の脅威に対する先進的な取り組みとして米国およびEUにおけるアプローチ、また、それに相互影響する形で発展した科学者コミュニティによる自発的なアプローチを取り上げ、予防能力、検知能力、対応能力のサイクルを強化することを通して、生物剤による脅威への準備態勢の構築が進められていることを示した。

『国際安全保障』第44巻第2号（2016年9月）32–49ページ。